



# 〈公開〉 生と死の物語

□会場 東洋英和女学院大学大学院  
(六本木) 201教室  
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)  
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)  
□先着 100名様

□参加費 各回500円  
本学院在校生・教職員無料  
□事前申込み 不要

## 第3回連続講座

5月20日(土)  
14:40-16:10(受付14:10)

### ■プロフィール

東京大学文学部宗教学科卒業。同大学院宗教学専攻博士課程退学。ハイデルベルク大学アッシリア学科修了(Dr. phil.)。専門領域は宗教学、死生学、アッシリア学(メソポタミアの楔形文字文献学)、旧約聖書学。東洋英和女学院大学助教授を経て1998年から現職。

### ■主要業績

「洪水神話の文脈—『ギルガメシュ叙事詩』を中心に」『宗教研究』373、2012。「ヨブの苦難と変容—『ヨブ記』の死生観と編者の意図」『死生学年報2017』リトン2017。「エサルハドン王位継承誓約文書」リトン2017。

## 渡辺和子

(わたなべ かずこ)

コーディネーター  
本学人間科学部教授

〈ラウンドテーブル〉

# 『エリザベート』を語る

### 内容紹介：

オーストリア＝ハンガリー帝国の皇后エリザベートの劇的な生涯(1837-1898年)を題材とするミュージカル『エリザベート』がウィーンで1992年に初演されました。その後、日本では宝塚版、東宝版などが人気を博しています。この企画は、1999-2003年に本学学長を務められた塚本哲也先生が2016年に逝去されたことを偲びつつ、ミュージカルの主人公の孫娘についての著作『エリザベート』(1992年、大宅壮一賞(1993年)受賞)を記念して、ミュージカル『エリザベート』に関心をもつ人々がラウンドテーブルに集まって語り合うものです。



## 第4回連続講座

5月20日(土)  
16:20-17:50

### ■プロフィール

東京大学文学部美学芸術学専修課程卒。同大学院人文社会系研究科文化資源学専攻修士課程修了。同研究専攻博士後期課程在籍中。研究テーマは、オペラ演出における宗教的要素の考察。

### ■主要業績

修士学位論文「マノンの表象—オペラ演出の視点から—」2016。「マズネのオペラ《マノン》における死の表象—赦しと樂園—」『死生学年報2017』リトン、2017。

## 笠原真理子

(かさばら まりこ)

東京大学文化資源学研究専攻  
博士後期課程

# 初演演出から考える ミュージカル《エリザベート》

### 内容紹介：

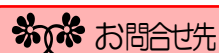
ウィーン発のミュージカル《エリザベート》は初演から四半世紀を経て、オーストリア国外でも人気のある作品の一つとなりました。このミュージカルは、今後日本でも、ますます多くの人から愛される作品となるでしょう。《エリザベート》のウィーン版演出は、オペラ演出家としても有名なクプファーが手がけています。本講座では、彼の演出について、さらには音楽劇における演出の意義について、皆様と共に考えてまいります。



〈予告〉2017年7月15日(土) 連続公開講座「生と死の物語」

第5回 三津間康幸「古代バビロニアの占星術に見る人間の生と死」

第6回 比留間亮平「星の動きと人の命運：西洋占星術の理論と背景」



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所  
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp  
03-3583-4035 (fax専用)